

#6 Team LeMans Audi R8 LMS
Yoshiaki Katayama
Roberto Merhi Muntan



大会概要

2022年 SUPER GTシリーズ 第4戦

大会名称

2022 AUTOBACS SUPER GT Round4 FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100LAP RACE

開催日時

8月6日 土曜（予選） 8月7日 日曜（決勝）

開催サーキット

富士スピードウェイ（1周：4.563km）

所在地：静岡県駿東郡小山町中日向694

同時開催レース

2022 FIA-F4選手権 第5戦・第6戦

Porsche Carrera Cup Japan 2022 第7戦・第8戦

主催

株式会社GTアソシエーション・富士スピードウェイ株式会社・FISCOクラブ(FISCO-C)

公認

国際自動車連盟（FIA）

一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

経済産業省/国土交通省/自由民主党モータースポーツ振興議員連盟/静岡県小山町/御殿場市/裾野/

公益社団法人 静岡県観光協会/小山町観光協会/一般社団法人 御殿場市観光協会/一般社団法人御殿場市観光協会/一般社団法人 裾野市観光協会/テレビ静岡



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+ O



ロベルト メルヒ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+ O

■ 監督



小倉 啓悟
KEIGO OGURA

■ スタッフ

チーフエンジニア 近藤 良一
チーフメカニック 田村 貴史

■ スポンサー

ザーレン・コーポレーション株式会社	株式会社デジテックエイチピー
TONE株式会社	コスモ開発株式会社
ニチアス株式会社	ウエスタンデジタルジャパン株式会社
エバー株式会社	医療法人さくら耳鼻咽喉科
カトー機械株式会社	ARMS株式会社
城東電機株式会社	ブランデューズ株式会社
株式会社ジョイフル設備	株式会社PACIFIC RACING TEAM
青山エレベーター株式会社	B.R.M / Viron Japan 株式会社
岡田金属株式会社	高新自動車学校
エルアイビリーリゾート株式会社	見田工作株式会社
	SPIN OFF

◆ 予 選

天候・・・曇り

コース状況・・・ドライ

気温・・・21℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度・・・28℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始・・・15時00分 (GT300クラスQ1-A組開始)



前回の第3戦鈴鹿から2カ月あまり、真夏の450kmレース2連戦の第一弾が富士スピードウェイで開催された。GT300クラスではドライバー3人体制で臨むチームもあるなか、Team LeMansはこれまでどおり、Aドライバーに片山義章、BドライバーにF1参戦経験のあるスペイン人のロベルト・メルヒの2名とし、また、エンジニアの変更など新体制で、100周にわたる長丁場に挑んだ。

まずは8月6日、決勝のスターティンググリッドを決めるノックアウト方式の予選が行われた。参加台数が多いGT300クラスでは、A、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。富士スピードウェイで行われる第4戦には26台が参加し、#6 Team LeMans Audi R8 LMSはQ1-A組から、まずはQ2進出を目指す。

#6 Team LeMans Audi R8 LMS

予選結果：25位（予選Q1ベストタイム：1分44秒521＝メルヒ選手）

霧がたちこめる富士スピードウェイでは、9時から公式練習が行われた。セッション開始の時点でマシンのバランスは良好。そのため、セットアップの変更は行わず、長丁場のレースに備えてタイヤの特性を理解すべく、2人のドライバーはユーズドタイヤでの走り込みに専念した。

そして15時から、くもり空のもと公式予選が行われた。Team LeMansはメルヒがQ1を担当。メルヒは4周目からタイムアタックを開始し、まずは1分37秒557をマークすると、次の5周目には1分37秒188を叩き出し、これが自己ベストタイムとなる。しかしこのタイムは8番手からコンマ024秒差の9番手で、惜しくもQ1を突破することはできなかった。その後、タイムアタック時の走りが走路外走行と判定され、当該ラップタイムは削除。タイムアタック直前に記録した1分44秒521がベストタイムとなったことから、最終的な予選結果は25位となった。

◆ 決 勝

天候・・・晴れ コース状況・・・ドライ

気温・・・26℃（スタート時）

路面温度・・・31℃（スタート時）

決勝レース開始・・・14時11分

レース予定周回数・・・100周（約450km）



#6 Team LeMans Audi R8 LMS（片山&メルヒ選手）

決勝結果：16位（所要時間：2時間35分41秒213=89周消化／ベストラップ：1分39秒218=メルヒ選手）

決勝直前に降り出した雨も上がり、スタートまでにはほぼドライコンディションに回復した富士スピードウェイでは、14時11分に決勝レースが開始された。

今回はメルヒがスタートを担当。パレードラップと通常より1周多い2周のフォーメーションラップののち決勝はスタート。メルヒはオープニングラップで8つ順位を上げ、17位と大健闘。その後も1分39秒台を連発しながら順調に周回を重ねていく。

35周を終えたところで1回目のピットストップを実施。給油とタイヤ交換を行ったチームは、ドライバーはメルヒのまま、マシンをコースに送り出した。実質17番手でコースに戻ったメルヒは上位勢とほぼ同等の1分40秒前後のラップタイムで14番手付近までポジションを上げていく。さらに先行するライバルをオーバーテイクするパフォーマンスを見せるが、果敢な走りが走路外走行と判断され、61周を終えたところでドライブスルーペナルティを受けることになった。

64周を終えたところで片山に交替。給油とタイヤ交換を行い、マシンはピットをあとにする。その直後、第2スティントのFCY時にメルヒの減速が遅れたという理由からペナルティが科され、片山は67周終了後にドライブスルーペナルティを消化するに。これにより#6 Team LeMans Audi R8 LMSは19位に順位を落としたものの、その後、片山はサイドミラーが見えないというトラブルを抱えながらも、上位勢と互角の1分40秒台で周回を続ける好パフォーマンスを見せる。さらに、最終ラップにライバルをオーバーテイクするなど諦めない走りで、16位完走でレースを締めくくった。

予選、決勝ともに、ペナルティにより順位を落とす結果となったが、ドライバーもマシンも調子が上向いており、この勢いで次の第5戦鈴鹿では再び入賞を狙う。

片山 義章 選手のコメント

決勝では、ライバルに比べて速いペースで走り、何台かオーバーテイクすることができたりと、良いパフォーマンスを見せることはできたと思います。ロベルトも、マシンやレースに慣れ、パフォーマンスは悪くなかったけれど、そのぶん少しプッシュしすぎたのかなと思いました。

残念ながらロベルトのペナルティで良い結果は残せませんでした。マシンのセットアップもまとまってきたので、ペナルティがなければ入賞できる実力はあると感じたレースでした。この調子を維持したまま鈴鹿に臨み、次こそは良い結果につなげたいと思います。

ロベルト・メルヒ・ムンタン選手のコメント

今回のレースでは入賞してポイントを獲得できるチャンスがあったにもかかわらず、自分のミスでポジションをダウンする結果になりました。応援していただいているファンの皆様やサポートしていただいているスポンサーの方々、またチームメンバーの皆さんには大変申し訳ないと思っています。

一方、マシンのバランスは大変良く、乗りやすく速い車に仕上がっていました。レース中も何台もオーバーテイクすることができるなど、これまでで一番良い内容だっただけに、2回のドライブスルーペナルティを受けてしまったことは本当に反省しています。

鈴鹿のレースでは、チーム全体で改善を図り必ず良い結果を出しますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。

小倉 啓悟 監督のコメント

予選、決勝ともに、ペナルティに泣かされる結果となってしまいました。しかし、片山選手もロベルト選手も、良いパフォーマンスを見せてくれたレースでした。ロベルト選手については、今後ペナルティで順位を落とすことがないように、話し合いを重ね、レースへの理解を深めてもらいたいと思います。片山選手については、彼の良いところをもっと引き出せるようチームとしてどんなサポートをしていけばよいかを考えていきます。

一方、今回の富士に向けて体制を変えてきたことが、良いほうに働いたと思います。マシンのセットアップもうまくいき、今後もより良い体制づくりを続けるとともに、次の鈴鹿に向けては、結果を出せるようしっかりと準備をしていきたいと思っています。

